

CS だより

日本キリスト教団逗子教会
牧師 小宮山剛
校長 渡辺 信

聖書のことば

『もう泣かなくてもいい。』ルカによる福音書7章13節

愛する人の死は、私たちに悲しみのどん底に突き落とします。夫に先立たれ、さらに数日前に一人息子を失ってしまった母親がいました。この母親の涙は枯れることはありませんでした。イエスさまはこの母親を見て、心から深く同情し、この言葉を発します。イエスさまは、人の悲しみに寄り添う方です。私たちの最大の悲しみは死です。イエスさまは最終的にご自分の死と復活によって、私たちに寄り添ってこう言います。「死は終わりではない、だからもう泣かなくてもいい。」

(『イエスのことば100』より)

晩秋の候となり、野山も秋の色がだんだん濃くなってきましたね。朝晩冷え込むようになりましたが、お元気ですか？

CS 礼拝での説教は、『使徒信条（しとしんじょう）』のお話が続いていますが、11月22日で一旦終わります。11月29日～12月19日は『アドベント（待降節）』となり、説教も、イエスさまがお生まれになるまでの出来事が中心になります。分級では、クリスマスの準備が始まります。詳しくは、裏面の『お知らせ』やクリスマスのチラシをご覧ください。一緒に、イエスさまのご降誕をお祝いする準備をしましょう。11月22日の分級の時間に、礼拝堂の、クリスマスの飾り付けをみなさんとしたいと思います。待っていまーす。



~~~~~ここからは、礼拝でのお話です~~~~~

11月1日の説教から 『十人のおとめのたとえ話から』

新約聖書：マタイによる福音書25章1～13節  
こどもさんびか：3『うれしいあさよ』  
ブレイズソング：5『主は今生きておられる』

みなさんは結婚式に行ったことがありますか？ 私も行ったことがあるのですが、とても楽しい嬉しい気持ちになったことを思い出します。この逗子教会でも結婚式を行うことがあります。そして逗子教会で結婚式をするときは牧師先生と一緒に何か月も前から準備をします。今日は結婚式の花嫁の付き添いの人であった十人のおとめが出てくるたとえ話をします。イエスさまがおられたユダヤの国では結婚式を夜にしました。ですから、ともしびを持つ



て、灯をともして花婿をお迎えすることになっていました。花嫁には、10人の付き人のおとめがついていました。花婿は結婚式の時間に遅れることもありました。いろんなところをまわっていたからです。今の時代のようにケータイを使って指一本で連絡できる時代ではありませんでしたので、花嫁やおとめたちはいつくるのかなと待っていました。なかなかこなかったのが、10人のうちの5人のおとめは、ともしびの油を持っていなくて切らしてしまいました。この5人のおとめは油を持っていた5人のおとめに「油を少し分けてください！」と頼みました。しかし、返ってきた答えは「わたしたちも自分の分しかなくてあなたたちに分けてあげるほどはありません。お店に行って買ってきたらどうでしょう？」というものでした。5人のおとめは油を探しに行きやと手に入れて戻ってみるともう結婚式は始まって

いて扉が閉まっていた。「開けてください！」と扉を叩くと中から返ってきた答えは「わたしはあなたたちのことを知りません。」というものでした。

これはどんなことを言っているのでしょうか。このたとえ話の「油」とは「信仰」のことです。信仰というのは「確かな救いを与えてくださる神さまにすべてをお任せすること」です。そしてこの信仰というものは誰かからもらうこともできないし貸してもらうこともできません。もちろん他の人に貸したりあげたりすることもできません。また、結婚式の扉は天国つまり天国のドアのことです。今日のたとえ話を聞いて自分だったらどの人かな？と考えてみましょう。自分は油をきらしてしまっただけではないし、そうはならないだろうと思うかもしれません。でも違うのです。私たちはみなこの油を切らしてしまうおろかなおとめなのです。扉を叩いても「あなたたちのことは知りません。」と言われてしまうおとめなのです。でもイエスさまが救い主として私たちのもとに来て下さいました。神さまのことを忘れてしまったり悪いことをしてしまったり、神さまのお喜びにならないことをしてしまったり私たちの罪を背負い十字架にかかって下さいました。おろかなおとめである私たちの罪を赦して下さいました。そして3日後に復活され、天に帰られる前に「世の終わりの時にまた来る」とおっしゃいました。世の終わりという恐ろしいような気持ちになりますが、それは今日のたとえ話の結婚式のようにうれしいことなのです。その時神の国に入れるかどうかの審判があります。その審判は生きている人だけでなくすでに死んだ人にもなされるのです。いまこのCSの礼拝では「使徒信条」というものについてのお話をしています。「使徒信条」というのは教会がなにを信じているのかについて言っている短い信仰告白文です。今日の使徒信条の箇所は「かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審き」というところでした。かしこ、というのは神の国のことです。審きというのは審判のことです。神さまはみんなが神の国に入ってほしいと願っています。そのためにイエスさまが十字架にかかって下さいました。世界が真っ暗な夜のものであっても、遅いな、まだかな、と心配になってもイエスさまは必ずおいでになります。その時がいつ来てもいいように、私たちは「油」という信仰を持ち続けて灯をともしていたいと思います。油がなくなりそうになった時は神さまにお祈りしてみてください。必ず神さまが助けて下さいます。

## 続きのお話

11月8日『聖霊を信じる』



11月22日『命のパン』



CS 礼拝のYouTube配信はこちらから→



11月15日『イエスさまの教会』



11月29日『このわたしにも』



\*カードの出典は福音主義教会連合

## これからの予定

### 幼児祝福礼拝

11月15日(日)第1礼拝(10:30~)と第2礼拝(14:00~)の中で、就学前までの子ども達の祝福式が行われます。

詳しくは前号のCSだよりでお知らせしましたが、小さいお友だちがいたら、教えてあげてください。

### こどものクリスマス

12月19日(土)10:00~11:30

クリスマス礼拝のあと、みんなでクリスマスの曲を演奏し、イエスさまのお誕生をお祝いします。サンタさんも登場するかも(^ω^)...お楽しみに。

### CSクリスマス礼拝

12月20日(日)9:00~10:15

いつものCSの時間に行います。

### クリスマス献金について

毎年、神さまの御用のために働いている団体への資金援助のため、献金を集めて送ります。今年は、昨年同様、次の2か所に送りたいと思います。

☆コイノニア・アカデミー (ケニアのスラム地区で子どもたちの教育を続けている。日本人の市橋隆夫宣教師とさら夫妻が運営)



☆ワールド・ビジョン (発展途上国の子どもおよびその家庭に細やかな援助を行なっているキリスト教系非営利団体)

ワールド・ビジョンについては、次の二つの企画があります。

① アドベント直前オンライン企画: 11/28(土) 14:00~15:00

『カンボジアの子どもたちのことを知ろう』...Zoomによる配信です。対象は、小学1~6年生。

案内はこちら→



② 広報動画: <https://www.youtube.com/watch?v=0Fp21gmIu4M>

これは、12月6日に、教会でも礼拝後に見る予定です。



\*逗子教会CSについてのお問い合わせはこちらどうぞ!

電話: 046-873-8724 ファックス: 046-854-7712 メール: [cs@zushikyokai.holy.jp](mailto:cs@zushikyokai.holy.jp)